―

**題名を記入[14pt]**

副題を記入[10pt,なければ詰める]

[１行空き]

**ENGlSH TITLE ENGlSH TITLE [10pt]**

English Sub title English Sub title [9pt]

[２行空き]

設計 太郎 ｜ Sekkei Taro\*1　設計 花子 ｜ Sekkei Hanako\*1　設計 次郎 ｜ Sekkei Jiro\*1[10pt]

[２行空き]

[２行空き]

In a previous paper, the authors proposed some techniques for the design of nonlinear self-excited systems. In this paper, the applicability of the ･･･････[8pt、行間13pt]（英文概要は，150英単語程度でまとめる．）

[１行空き]

**Key Words**｜self-excited system, nonlinear system,･･････････････････vibration, simulation[8pt]

（キーワードは，英文概要の次に，すべて小文字で書く．）

[２行空き]

[２行空き]

**１．基本事項（ここに章名）[10pt]**

[１行空き]

[基本事項]用紙は,B5変形サイズ（247mm×182mm）とし,マージンは指定通り（上13mm,下17mm,左右13mm）にとる.二段組とし,それぞれ20字,段間は２字とする.

|  |
| --- |
| \*1　日本建築設計大学工学部 [8pt、行間13pt](〒XXX-YYYY 新宿区百人町2-22-17)School of Engineering, Nihon Kenchiku Sekkei UniversityEmail: \*\*\*\*@NKS-u. ac.jp[１行空き]\*2　設計製図(株)設計部(〒XXX-YYYY 千代田区お茶の水1-1-1)Design Division, Sekkei Seizu Ltd.Email: \*\*\*\*@SS.co.jp[１行空き]\*3　設計製図(株)設計部(〒XXX-YYYY 千代田区お茶の水1-1-1)Design Division, Sekkei Seizu Ltd.Email: \*\*\*\*@SS.co.jp |

 [フォント・サイズ]本文にはすべてゴシック体を使用する（本フォーマットではMSゴシックとしている）が,最終的にはデザイン性を考慮し,他のフォントに置き換えられて印刷される.フォントサイズは,章名10pt,節名9pt,本文8ptとし,章名・節名はそれぞれ後１行を空行とする.また各章の終わりには２行空行,各節の終わりは１行空行とする.

[２行空き]（１頁に左段下寄せで執筆者情報を記載する）

[２行空き]

ただし,章や節が用紙の最上段（最下段が章名や節名にならないよう）になった場合は,前の文章と１行空けないで第１行目に書く.なお本文の行間は13pt以上（最小値）とする.※文字数を規定頁数に収めるために行間は詰めることは認められない.

[１行空き]

１．１　表記のルール（ここに節名）[9pt]

新しい段落はこのように１コマ字下げしてから書く.文章の区切りには,読点としてカンマ「,」を，句点としてピリオド「.」を用いる（括弧を付して補足説明する場合は，この例のように本文の句読点の前に括弧を挿入し，括弧内の文章の最後には句読点を付けない）．

数字は１ケタの場合は全角,２ケタ以上の場合は半角を用いることを原則とする.ただし数式等で用いる場合はこの限りではない.英字や記号などは，１コマに２字記入してもよい．文献番号は，１），２）または３）～８）のように上付文字で書く．

[２行空き]

[２行空き]

**２．図表の書き方**

[１行空き]

本文と図表の間は，前後１行ずつ空ける．また，以下の例のように，図番・図名は図の下に配置し，表名・表番は表の上に配置する．

図名，表名は，英語あるいは日本語で記述する．また，図番および表番はそれぞれ，Fig. 1，Table 1のように通し番号を用いる．本文で引用するときは，図１，表１，・・・とする．

図の例１

（大きな図の場合は、このように段組み遮って挿入してもよい）

Fig. 1 図版キャプション

[１行空き]

また，図表はできるだけ上下左右のいずれかに寄せて配置するとよい．図表中の語句（キャプション）はすべて7pt以上の大きさで，図表名の言語に合わせた言語で記述する．採用言語は統一のこと．

[１行空き]

Table 1 表キャプション

|  |  |
| --- | --- |
| 表の例 | 表の例 |
| 表の例 | 表の例 |
| 表の例 | 表の例 |

[１行空き]

図の例２

Fig. 2 図版キャプション

(他の文献から転載したときは図名の直下に，「文献8)から転載」等と明記すること)

[２行空き]

[２行空き]

**３．式の書き方**

[１行空き]

式は，左端より３コマ以上空けて書き，式番号は括弧を付して右端に書く．例えば，

$a=b\sin(α)+c\tan(β)$ (1)

のようである．ただし，

$b=\frac{d(e+f)}{g+h}$ (2)

分数を書くときは，式(2)のような表記法を用いる．ただし，本文中に記述するときは，*b*＝*d*(*e*＋*f*)*/*(*g*＋*h*)とする．

**４．おわりに**

[１行空き]

以上に述べたように，原稿執筆において注意すべき事は，読者が読みやすいように配慮することである．

[２行空き]

[２行空き]

|  |
| --- |
| 参考文献1) 設計太郎，製図次郎：ＣＡＤ設計論，設計工学，28, 13 (1995), 563. ［和文雑誌の例］2) Jones, P., Young, T. and Thomson, G.: Analysis and Design of a New Bearing, J. Machine Element, 43, 13 (1992), 145. ［英文雑誌の例］3) 設計花子：機械設計の理論と応用，新関東書籍 (1990), 236.［和文書籍の例］4) Douglas, A.E.：Introduction of Mechanical Design, New York Pub. Co. (1993), 53. ［英文書籍の例］10) 日本設計工学会 編：設計の原理，NPC出版 (1994), 123.［和文書籍（編集）の例］註註1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・註2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・註3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |